

公民で水源保全推進

岡崎市 民間12者と協定

岡崎市は9月28日、公民連携による水道水源保全事業「未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト」の推進に向け、関連企業・団体12者と事業連携に関する協定を締結した。同日、市役所で締結式が執り行われ、それぞれの代表者が協定書に署名した。今後、安全・安心な水道水の未来にわたる安定供給継続を目的に、水源林の育成・管理やその重要性に関する啓発活動等に企画段階から公民で連携・協力して取り組んでいく。

同市上下水道局ではこれまで、水源保全の取組みとして水源探訪ツアーや職員によるボランティア

活動などを実施してきたが、より効果的な水源保全事業を展開すべく同プロジェクトを立ち上



協定書を手にする内田市長と各代表者

げ、市からの提案に賛同した12者との協定締結に至った。参加企業・団体からの寄付と運営支援によるスケールメリットを生かした事業の推進に加え、参加企業・団体にとってはCSR活動への参加による人材育成やステークホルダーとの直接交流による企業価値の相互向上、他企業との連携による新たな事業機会の創出などが期待される。協定では、連携協力事項として▽水道水源林の育成および管理を行う事業▽水道水源林の大切さを伝える啓発事業の2点を定めた。それぞれの活動内容として、水道水源林の育成・管理については、主に同市の主要な水道水源となっている乙川上流域に

おける保水機能維持のための間伐等、啓発事業については、市民が楽しみながら水や水源林の重要性を理解できるよう、水源地の特性を生かしたト

レッキングやアクティビティ要素を取り入れた企画の実施等を予定している。具体の事業内容は今後、市と参加企業・団体(協定参加者)で設置する連絡会議等で協議・検討の上、決定する。市によれば、公民連携による水道水源保全事業

は他事業体においても実施されているが、事業内容の検討段階から連携・協力を図る試みは全国的にも珍しく、中部地方では初となる。今後は事業の本格化に先立ち、協定参加者が水源保全の重要性や取り巻く環境の変化などへの理解を深める機会として、名古屋工業大学の富永晃宏教授を招いた講演会を10月末に予定している。協定の有効期間は3年間。参加企業・団体は次の通り。岡崎市管工事業協同組合▽エステム▽クボタ▽小泉設計事務所▽

大成機工▽玉野総合コンサルタント▽第一環境▽名古屋バルブ工業▽日本水工設計▽日本鑄鉄管

黒澤取締役の話 「コロナ禍での手洗い励行等を通じて公衆衛生を支える水道の重要性が再認識されている状況下でプロジェクトを立ち上げた市の決断は時宜を得たもの。各者の技術やノウハウを生かし、水源保全の一助となるよう取り組みたい。特に未来を支える世代の人たちに水の大切さと貴重な水源の存在を伝えたい。

縮結式では、参加者を代表して内田康宏岡崎市長、黒澤利彦クボタ取締役専務執行役員水環境事業本部長、岡地雄一第一環境代表取締役社長がはいさつに立った。また、乙川上流域の間伐材で作られた「認定証」が協定参加者に授与された。

岡地社長の話 安全・安心な水道水を安定供給することが水道事業の使命であり、水源林の保全はその原点と言える。また、土砂の流出を防ぎ新鮮な酸素を供給する森林を保護することは私たちの生命維持にも寄与する。プロジェクトを通じて一人でも多くの市民の皆さまに水源林を保全していただくの大切さを伝えていきたい。

日本コン▽コスモ工機

内田市長の話 本市は水道水の大部分を自己水源で賄っており、水源保全は水道水を未来にわたって安定供給し続けていく上で重要な事業。参加企業・団体の各者にはCSR活動の機会としてプロジェクトに賛同いただきたい。皆さまとともに事業を作り上げることで、より良い活動が展開できる

と確信している。



間伐材で制作した認定証